

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2009年7月)

発表日 2009年8月26日(水)

～輸出の改善傾向は継続～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		貿易収支(億円)		輸出金額		輸出数量						輸入数量							
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	アメリカ		EU		アジア		前年比	アメリカ		EU		アジア	
							前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
08	1月	▲1063	11674	7.7	9.5	7.7	▲3.1	3.4	11.9	0.7	▲7.1	▲1.7	1.7						
	2月	9358	6902	8.7	10.7	14.3	1.8	8.6	21.7	▲1.0	▲0.5	0.6	▲2.9						
	3月	10962	6789	2.2	11.4	5.9	▲3.4	5.5	7.9	4.3	▲8.4	2.9	12.5						
	4月	4587	5920	3.9	12.2	7.3	▲0.5	3.8	12.2	5.8	▲6.2	4.2	5.6						
	5月	3411	3733	3.6	4.8	6.6	▲0.4	0.1	10.5	▲3.4	▲11.0	▲7.3	▲4.8						
	6月	1041	▲1048	▲1.8	16.7	▲1.5	▲8.6	▲8.9	1.1	4.4	11.9	1.9	2.0						
	7月	819	▲382	7.9	18.2	8.9	▲5.3	3.1	12.1	2.2	▲1.9	▲11.2	0.9						
	8月	▲3142	▲2762	0.2	17.1	▲1.0	▲18.9	1.7	2.6	▲4.5	1.4	▲8.1	▲5.2						
	9月	910	▲779	1.5	28.8	▲0.6	▲12.2	▲8.1	1.2	6.1	5.0	4.0	9.9						
	10月	▲752	▲2410	▲7.9	7.4	▲6.9	▲17.4	▲10.4	▲2.8	▲2.4	▲18.3	▲6.0	1.8						
	11月	▲2275	▲3297	▲26.8	▲14.4	▲22.7	▲28.5	▲16.8	▲22.4	▲10.7	▲12.2	▲14.8	▲8.6						
	12月	▲3222	▲1432	▲35.0	▲21.5	▲29.9	▲31.3	▲29.7	▲30.7	▲7.1	▲16.1	▲10.6	▲5.6						
09	1月	▲9560	▲3725	▲45.7	▲31.9	▲40.9	▲48.6	▲42.0	▲39.0	▲11.7	▲22.8	▲15.3	▲10.7						
	2月	827	▲107	▲49.4	▲43.0	▲45.4	▲55.5	▲45.6	▲40.6	▲25.3	▲24.3	▲27.4	▲30.8						
	3月	91	▲192	▲45.5	▲36.6	▲41.1	▲49.5	▲49.6	▲33.8	▲20.4	▲22.8	▲27.5	▲20.7						
	4月	664	1219	▲39.1	▲35.8	▲35.9	▲49.4	▲42.8	▲28.8	▲20.3	▲27.2	▲29.7	▲18.9						
	5月	2968	2491	▲40.9	▲42.4	▲36.2	▲46.8	▲40.2	▲27.6	▲24.0	▲34.9	▲28.7	▲23.2						
	6月	5075	3741	▲35.7	▲41.9	▲27.6	▲37.4	▲36.1	▲19.0	▲18.2	▲35.9	▲23.5	▲13.7						
	7月	3802	1945	▲36.5	▲40.8	▲27.6	▲34.7	▲36.5	▲18.6	▲14.9	▲30.4	▲24.4	▲11.6						

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支は6ヶ月連続で黒字

7月の貿易収支は+3,802億円(原数値、前年比+364.2%)と、6ヶ月連続の黒字となった。前月同様、原油価格の下落を背景に、輸入金額(前年比▲40.8%←6月同▲41.9%)が輸出金額(前年比▲36.5%←6月同▲35.7%)を上回るペースで減少した結果、貿易黒字額は2ヶ月連続で前年比プラスとなった。

輸出金額は、前月から減少率が若干拡大したが、これは円高の影響により輸出物価が低下したことで押し下げられている面が大きい。日本銀行が公表している実質輸出をみても、前月比+2.3%と5ヶ月連続で改善しており、7月の水準は4-6月期を7.9%上回っている。輸出は引き続き回復傾向が続いていると判断されよう。

○アジア向け輸出の回復傾向は継続

輸出の動向を地域別(金額ベース)にみると、ロシア向け(前年比▲86.5%←6月同▲83.5%)、米国向け(同▲39.5%←6月同▲37.6%)、EU向け(同▲45.8%←6月同▲41.4%)は前月から減少率が拡大した。もっとも、数量ベースでみると、米国向け(前年比▲34.7%←6月同▲37.4%)は、前月から減少ペースが緩和している。また、アジア向け(前年比▲18.6%←6月同▲19.0%)も、前月から減少率は縮小している。世界的な在庫調整の進展や景気刺激策の効果によって、輸出は緩やかに改善していると考えられる。

品目別でみると、自動車の米国向け(前年比▲40.8%←6月同▲36.5%)、EU向け(同▲49.3%←6月同▲41.4%)は前月に比べ減少率が拡大したものの、均してみれば持ち直し傾向が続いている。さらに、半導体等電子部品も、アジア向け(前年比▲23.3%←6月同▲17.3%)を中心に減少率は拡大したが、実質ベースでは中国向けを中心に回復傾向が続いている。

○輸入は原油、液化天然ガスなどが減少

輸入は金額(前年比▲40.8%←6月同▲41.9%)、数量(前年比▲14.9%←6月同▲18.1%)ともに、前月から減少率は縮小した。日本銀行が公表している実質輸入をみても、前月比で+3.3%となっており、生産の持ち直しなどを背景に輸入も緩やかに持ち直しつつある。

品目別でも、原油(前年比▲58.7%←6月同▲64.0%)をはじめとした鉱物性燃料は前月に比べ減少ペースは鈍化している。

○先行き輸出の緩やかな改善により、貿易収支も緩やかに増加していく見込み

7月は円高の進行などにより輸出物価が低下したことで、輸出金額のマイナス幅が拡大したが、実質ベースで見ると、これまでの海外における在庫調整の進展や各国における景気対策効果などにより回復している。

先行きについても、輸出に先行する傾向がある米ISM製造業景気指数(新規受注)やOECD景気先行指数などの指標が比較的早いペースで改善していることから考えて、輸出は今後も改善が続く可能性が高い。

他方、輸入は、原油価格の下落が継続すると思われるものの、輸出の回復により国内景気が次第に持ち直しに向かうもとの、緩やかな増加に転じていくことが予想される。

輸出の回復に伴って、貿易黒字額は緩やかに増加していくだろう。

